このノートでは，フランス語会話の骨格となるフランス語の文法を，おおまかに，英文法をベースにしてまとめていきます．目標は「英語で言えることが 8 割程度の精度で仏語で言えるようになること」です．[1]

注意. つづり字の標準的な発音は既知と仮定します．カタカナ読みをつけた部分もありますが，あくまで便宜的なものです．

1 名詞と性

仏語の名詞には「性別」があるという点で，英語と大きく異なります．たとえば vin = wine は男性，bière = beer は女性といった感じです．すべての名詞には男女いずれかの性が定まっており，それを修飾する冠詞・形容詞にも帽子や服のように男モノ・女モノの区別があります．[2]

複数形. 名詞の複数形は英語と同様で，原則として単語の最後に s をつければ OK です．たとえば：

単数形 < 複数形
maison < maison**s** (= house < houses)
homme < homme**s** (= man < men)

ただし仏語では複数形の s を発音しないため，音の上では単複の区別がつかないことになります．もちろん，英語と同程度に例外も多くあります．(cheval=horse の複数形は chevaux=horses など．)

定冠詞. 仏語文中の名詞にはほとんどの場合定冠詞・不定冠詞，もしくはそれに替わるものがつきます．たとえば英語の the は男性名詞単数形，女性名詞単数形，複数形の別に応じ le, la, les となります．すなわち,「男性用冠詞」「女性用冠詞」のほかに，男女兼用の「複数形用冠詞」があるわけです．

the wine = **le** vin（男性名詞）
the beer = **la** bière（女性名詞）
the gloves = **les** gants（男性名詞複数）

ちなみに gant（手袋片方）と gants（手袋２こ以上）と発音が同じなので，冠詞が le gant（ルガン）から les gants（レガン）に変わることで複数形であるという情報が伝わります．

また，発音して「母音で始まる単数名詞」の前では，定冠詞は l' となります．たとえば女性単数のétoile = star は la étoile ではなく l'étoile となります．また，男性単数の hôtel = hotel は h が発音されないため le hôtel ではなく l'hôtel = the hotel となります．[3]「母音で始まる複数名詞」の場合は同じく les を使いますが，リエゾンが発生します：the stars = les étoiles（レゼトワル）.

不定冠詞. 英語の a/an に対応する不定冠詞は，男性用が un, 女性用が une です.（こちらは母音で始まる名詞でも変化しません.）英語の場合複数形に不定冠詞は用いませんが，仏語では des という男女兼用の複数形用不定冠詞があります.

a hotel = **un** hôtel
a star = **une** étoile
houses = **des** maisons
men = **des** hommes

数えられない名詞と部分冠詞. 英語の water や fish は複数形をもたない不可算名詞（数えれらない名詞）でした．同様に，仏語の eau = water や poisson = fish にも複数形が存在しません．それでも飲み物，食べ物として具体的に使うときには冠詞はつける必要があって，その場合「de+定冠詞+不可算名詞」という形をとります：

I drink **beer** = Je bois **de la bière**.（女性名詞）
I drink **water** = Je bois **de l'eau**.（女性名詞）
I eat **fish** = Je monge **du poisson**.（男性名詞）
I have **money** = J'ai **de l'argent**.（男性名詞）

de l'eau は de la eau の退化したもの（**縮約形**）, du poisson は de le poisson が退化したものです．この de は英語で言うと part of ... のような意味があるので，**部分冠詞**よ呼ばれます．

その他冠詞の代わりになるもの. 英語では指示形容詞 this/that/these/those を定冠詞 the のかわりにつけることがありますが，仏語も同様です．仏語ではありがたいことに，this/that の区別はしません．そのかわり，男/女を区別し，ce/cette を用います：

this/that wine = **ce** vin（男性名詞）
this/that beer = **cette** bière（女性名詞）

また,「母音で始まる男性名詞」では ce のかわりに cet を用います.「母音で始まる女性名詞」は cette で変わりません：

this/that man = **cet** homme（男性）
this/that apartment = **cet** appartement（男性）
this/that star = **cette** étoile（女性）

cet と cette は同じ発音なので，母音で始まる名詞は楽ができます．また．these/those は男女ともに ces を用います．これも楽です：

[1] もちろん，会話では聞き取りも必要ですから，これで仏語の会話が 8 割程度の精度で成立するとは限りません．

[2] 残念ながら名詞のつづり・発音だけから男女の別を区別するアルゴリズムは存在しません．男（女）モノを着るのが男（女）性名詞なので，その服や帽子も一緒に一緒に覚えるとよいとされています．

フランス人に，外国人が冠詞を間違うってどんな感じ？と訊ねたら，"It's just funny"といってました．会話では funny と思われるよりも用件を伝えるほうが大事なので，名詞の性のことはついついないがしろにしてしまいます．しかし，単複の区別に比べると，情報の欠落はほとんど無いんじゃないでしょうか．

ちなみに数学でもよく登場する-tion, -aison, -té で終わる単語は女性, -age, -isme, -ment で終わる単語は男性と決まっているようです．-eur で終わる言葉も英語の動詞+er に対応する場合（ほぼ？）男性名詞のようです．

[3] これは「仏語は母音の連続を嫌う」という発音上の傾向があるためで，la étoile となると母音がつながり，気持ち悪いのだそうです．英語で不定冠詞 an が使われるのと同じです．

these/those books = **ces** livres（男性複数）
these/those houses = **ces** maisons（女性複数）
these/those men = **ces** hommes（男性複数）
these/those stars = **ces** étoiles（女性複数）

指示形容詞以外では，英語の所有形容詞 (my/your/his/..) にあたるものや，数詞 (one/two/..) など量をあらわす形容詞は冠詞のかわりになります：

my book = **mon** livre（所有形容詞：後述）
two books = **deux** livres （数詞）
several books = **plusieurs** livres（量をあらわす）

また，人名など固有名詞は原則として冠詞をとりません．

形容詞. 名詞を修飾する形容詞にも，男性用と女性用の区別があります．さらにややこしいことに,「男性単数用」と「男性複数用」,「女性単数用」と「女性複数用」の区別があります．たとえば大きな an apartment = un appartement, 大きな a house = une maison はそれぞれ

a **large** apartment = un **grand** appartement
a **large** house = une **grande** maison

となり，large を意味する形容詞が grand（グラン）と grande（グランドゥ）で発音の上でも区別されます．[4]ほとんどの場合，男性用形容詞のあとに e というおまけをつけることで女性用の形容詞ができあがります．

一方，複数形では冠詞・形容詞・名詞それぞれ複数化されて

large apartments = des **grands** appartment
large houses = des **grandes** maisons

のようになります．男モノの grand が男性複数用の grands に，女モノの grande が女性複数用の grandes になっていることに注意してください．これら「形容詞の複数形」は，ほぼ名詞の複数形と同様の規則で作られます．単語自体の発音も単数の時から変化しません．[5]

ただ，こうした形容詞の作り方にはいくつか例外があり，男女兼用の形容詞があったり,「母音で始まる男性名詞」専用の形容詞があったりします．

形容詞の置き場所. 実は上の grand(e)(s) のように，名詞の前に置かれる形容詞は限られていて，

男性単数用 / 女性単数用
autre / autre = other, another
beau (bel) / belle = beautiful, handsome
bon / bonne = good
gentil / gentile = gentle
grand / grande = great, large, tall
gros / grosse = big, large, fat
jeune / jeune = young
joli / jolie = pretty
long / longue = long
mauvais / mauvaise = bad
petit / petite = small
vaste / vaste = vast
vieux (vieil) / vieille = old

など（ほかにあるの？）です.（上記の bel および vieil は母音で始まる男性名詞専用です.）それ以外の形容詞は，名詞の後ろにおきます．いわゆる後置修飾です．

red wine = du vin **rouge** [6]
new wine = du vin **nouveux** [7]

英語でも "The wine **I got yesterday** was really fine" のように，後置修飾は頻繁に行われるので，すぐに違和感がなくなることでしょう．

2 人称代名詞と be 動詞

人称代名詞. さて英語における "X is Y" 型の文章を仏語にすることを考えましょう．まず主語としてもっとも頻繁に使われるのはいわゆる人称代名詞（英語の I, you, he, she, it, we, they）です．仏語では

1 人称単数：**je**
2 人称単数：**tu**
3 人称単数男/女：**il / elle**
1 人称複数：**nous**
2 人称複数：**vous**
3 人称複数男/女：**ils / elles**

のようになります．2 人称単数は原則 vous で，tu というのは親しい間柄や子供相手にだけ使います．そのため，使用頻度は個人差が大きいでしょう．英語の 3 人称単数でモノ・ことを表す it は，it に対応する名詞の男/女に応じて il/elle と使い分けます．[8]ちなみに elles というのはに女性だけの集団にのみ用います．たとえば女性 1 万人と一緒に男の赤ちゃんが 1 人いても，これは ils なんだそうです．

人称代名詞以外に，this/that に相当する ce(ça) や，one に相当する on（nous の代わりによく用いられる）などは主語として頻繁に登場します．これらについては後述しましょう．

be 動詞. さて be 動詞に対応する仏語の動詞は être です．be が I am, you are, he is, we are.. などと活用されるように,「人称代名詞＋être」も次のように活用します：

[4]grand appartement の方はリエゾンが発生し,「グランタパるトゥマン」となります.（d の音はリエゾン時 t の音になることに注意.）
[5]リエゾンが発生する場合は別．grands appartement は「グランザパるトゥマン」となります.（s の音はリエゾン時 z の音.）
[6]du は部分冠詞．→前のページ
[7]new = nouveau (nouvel)/ nouvelle は新種・新酒のように，新しく登場するもののときだけ名詞の後ろにくる．new でも next や renewed の意味合いを含む場合に対応する nouveau は名詞の後．たとえば新年は nouvel an 2009= new year 2009，映画における Nouvelle Vague = New Wave など．
[8]仏語は名詞の男女の区別が明確なぶん，ヒトとモノの区別があいまいだとも言えます．

je **suis** （ジュスゥイ）
tu **es** （トュエ）
il **est** / elle **est** （イレ / エレ）
nous **sommes** （ヌソム）
vous **êtes**（ヴゼテ）
ils **sont** / elles **sont**（イルソン / エルソン）

たとえば：

He/She is gentle.
= **Il est** gentil. / **Elle est** gentile.
They are tall.
= **Ils sont** grands. / **Elles sont** grandes.

これらの「be 動詞」être の活用を覚えておけば,

Jimmy **is** great. = Jimmy **est** grand.
Jimmy and Robert **are** great guys.
= Jimmy et Robert **sont** des grands hommes. [9]

のような表現ができるのは，英語と同様です.

人称代名詞の所有格. 英語の I/my/me/mine の my にあたる所有格は，仏語だとすこしややこしくなります．まず「my X」（X は名詞）の my にあたる部分が，X の仏語訳 f(X) が男性か女性か，複数形かに応じて変化します：

主格：**所有格（男/女/複数）**
je：**mon / ma / mes**
tu：**ton / ta / tes**
il/elle：**son / sa /ses**
nous：**notre / notre / nos**
vous：**votre / votre / vos**
ils/elles：**leur / leur / leurs**

たとえば：

my father = **mon** père（男性単数）
my mother = **ma** mère（女性単数）
my parents = **mes** parents（男性複数）
my husband = **mon** mari（男性単数）
my wife = **ma** femme（女性単数）
her apartment = **son** appartment（男性単数）
his house = **sa** maison（女性単数）

ただし「母音で始まる女性単数名詞」には

my (female) friend = **mon** amie（私の女友達）
his story = **son** histoire（彼の物語）

のように男モノ所有格を使うので，すこしだけ楽になります．ちなみに Jimmy's guitar は la guitare de Jimmy = the guitar of Jimmy のように表現します．[10]

[9] grands hommes はリエゾンが発生して「グランゾム」．ちなみに「背が高い男たち」は慣用的に des hommes grands.

[10] 一方 Eric's guitar は la guitare d'Eric とします．de Eric が d'Eric に退化するのです．こうした仏語における縮約は規則であって,「I am または I'm」のような自由さはありません.

ついでに，I/my/me/mine の mine にあたる所有代名詞を列挙しておきます．結構複雑で，オリジナルの名詞が男か女か，さらに単数か複数かで区別されます．まず単数の男女は：

主格：**所有代名詞（男単/女単）**
je：**le mien / la mienne**
tu：**le tien / la tienne**
il/elle：**le sien / la sienne**
nous：**le nôtre / la nôtre** [11]
vous：**le vôtre / la vôtre**
ils/elles：**le leur / la leur**

となります．かならず定冠詞がつくことに注意しましょう．
つぎに複数形です．定冠詞・所有代名詞がそれぞれ複数化します：

主格：**所有代名詞（男複/女複）**
je：**les miens / les miennes**
tu：**les tiens / les tiennes**
il/elle：**les siens / les siennes**
nous：**les nôtres / les nôtres**
vous：**les vôtres / les vôtres**
ils/elles：**les leurs / les leurs**

たとえば，次のように用います：

Your car is white, but **mine** is black. =
Ta voiture est blanche, mais **la mienne** est noire.
Your parents are nice, but **his** are terrible.
= **Vos parents** sont gentils, mais **les siens** sont terribles.

指示代名詞. 英語の主語として人称代名詞に負けず劣らず頻繁に使われるのは指示代名詞 this/that/these/those でしょう．仏語ではこれらをは区別せず ce を用いるため,

This is our house. = **C'est** notre maison.
That is their house. = **C'est** leur maison.
These are books. = **Ce sont** des livres.
Those are textbooks.=**Ce sont** des livres de classe.

ここで c'est は ce est の縮約形ですが後者のように言うことはありません．ちなみに会話では，上の Ce sont を C'est といってもかまわないようです.

It's/That's. 英会話では it is/it's X や that is/that's X という表現が欠かせません．これらに対応するのは il est と c'est です.（使い分けは場合によりけりのようです.）

It is six o'clock. = **Il est** six heures. （時間）
(**It is** hot. = **Il fait** chaud. ：天候は特殊．後述．)

[11] 所有格の notre と所有代名詞の nôtre では o とô の発音が異なります．vôtre も同様.

It is sure that ... = **Il est** sûr que ... [12]
It is easy to [verb] = **Il est** facile de [verbe] [13]
It's / **That's** great! = **C'est** genial!
That is mine. = **C'est** le mien / la mienne.

3　動詞の活用（現在形）

つぎに英語でいうところの SV や SVO 型の文章を仏語で言うことを考えます．

動詞の現在形． まずは現在形の平叙文をつくってみましょう．仏語動詞の現在形で特徴的なのは，活用が英語に比べ複雑なこと,「現在進行形」という時制が存在せず，現在形で代用されてしまう，という点でしょう．

仏語では人称代名詞 je/tu/il(elle)/nous/vous/ils(elles) それぞれが，上でみた être = be のように，特別な活用を持ちます．たとえば動詞 avoir =have を仏語で活用してみましょう．英語の I have/you have/.. は次のようになります：

j'**ai** (ジェ，je ai の縮約形)
tu **as** （トゥア）
il **a** / elle **a**（イラ/エラ）
nous **avons**（ヌザヴォン）
vous **avez**（ヴザヴェ）
ils **ont** /elles **ont**（イルゾン/エルゾン）

発音にリエゾンが発生していますから，ネイティブの頭の中では，主語と動詞の間の空白は無視されていると考えられます．やっかいですが，主語も動詞の一部だと思って，何度も口に出して覚えるのが合理的です． [14]

We **have** an apartment.
= Nous **avons** un appartement.
I **have** money. = J'**ai** de l'argent.（部分冠詞）

第 I 群規則動詞． これまでに見た be = être や have = avoir は不規則動詞の最たるものですが，日常よくつかう動詞の半分ちかくは第 I 群とよばれる規則動詞に属します． [15]たとえば,

arrive = **arriver**
like = **aimer**
live = **habiter**
speak, talk = **parler**
think = **penser**
visit = **visiter**

などです．これらはすべて er で終わっているのが特徴です．たとえば I think は次のように活用します（以下，とくに断らないかぎり il と elle，ils と elles はそれぞれ同じ活用）：

je pens**e** （ジュ パンス)
tu pens**es** （トュ パンス）
il pens**e** （イル パンス）
nous pens**ons** （ヌ パンソン）
vous pens**ez** （ヴ パンセ）
ils pens**ent** （イル パンス）

みて分かるように，原型 penser から er を除いた部分が語幹 pens （パンス）であり，それに

je: -e （無音）
tu: -es （無音）
il: -e （無音）
nous: -ons （オン）
vous: -ez （エ）
ils: -ent （無音）

を加えることで活用形が得られます．とくに，発音の区別としてはパンス・パンソン・パンセの 3 種類しかないので会話の上では avoir ほどの苦労がありません．たとえば，つぎのように用います：

I think that Jimmy is tall.
= **Je pense** que Jimmy est grand.
They speak very fast, but **we speak** slowly. =
Ils parlent très vite, mais **nous parlons** lentement. [16]

母音で始まる動詞の場合，リエゾンや縮約など発音の変化に注意しましょう．たとえば like = aimer の場合

j'aim**e**（ジェム)
tu aim**es**（トュエム）
il aim**e**（イレム）
nous aim**ons**（ヌゼモン）
vous aim**ez**（ヴゼメ）
ils aim**ent**（イルゼム）

となります．live = habiter（アビテ）も同様に

J'**habite** à Paris (ジァビトゥ)
Vous **habitez** au Japon（ヴザビテ）

のようになります．これらも主語と共に口に出して，音感で身につけるとよいでしょう．

不規則動詞． 不規則動詞の活用は，たくさんの用例にふれながら覚えていくしかありませんが，それでも単数の発音は 1 種類というのがほとんどです．たとえば say = dire の場合,

[12] that = que
[13] Google によれば Il est facile de が 73 万ヒット，C'est facile de が 18 万ヒット．
[14] ちなみに，動詞の原型 avoir（アヴォワ）自体は活用の中では現れません．(このような現象は英語では be 動詞だけだったような．）動詞の原型は to 不定詞のように用いられるので**不定形**とも呼ばれます．
[15] 動詞全体では 85% とも言われています．
[16] parlent / parlons は parler の語幹 parl に-ent（無音）をつけたもの / -ons（オン）をつけたもの．

je **dis**（ジュディ）
tu **dis**（トュディ）
il **dit**（イルディ）
nous **disons**（ヌディゾン）
vous **dites**（ヴ ディトゥ）
ils **disent**（イル ディス）

のようになり，je/tu/il で発音を区別する必要がありません．

nous のかわりの主語 on. 会話では nous を使わず，英語の one にあたる on で代用することが多いようです．ありがたいことに on は 3 人称単数扱いなので，たとえば

We speak (in) French.
= **Nous parlons** (en) français.
= **On parle** (en) français.

のように言い換えることが出来ます．自分で話すときは nous でなく on を使うことで，身につけるべき活用の種類がかなり軽減します．[17]

非人称主語としての it = ça. 英語で it costs ... it must be ... など，非人称の it が is 以外の動詞を伴うこともよくあります．仏語にする場合，c'est は使えないのでça という主語を用いて

It costs two euros. = **Ça coûte** deux euros.
It must be difficult to learn French.
= **Ça doit** être difficile d'apprendre le français. [18]

などといいます．動詞は ce と同じく 3 人称単数で活用されます．また，天候・気温など表すとき，たとえば It is good / cold. は慣用的に faire = make / do という動詞を用いて Il fait beau /froid. などとします．

4 目的語としての代名詞

英語でいうところの SVO もしくは SVOO' 型のように，目的語をとる文を仏語にすることを考えてみましょう．まず，目的語には直接目的語（「〜を」の「〜」）と間接目的語（「…に」の「…」）の区別があるのでした．ここでは動詞を他動詞に制限せず，I talk to him. のように，to him の部分が自動詞 talk の事実上の間接目的語になっているような場合も含めることにします．

SVO 構文と直接目的語. 簡単な例として，They know Jimmy. という文を考えましょう．仏語だとこれは

They know Jimmy. = Ils connaissent Jimmy. [19]

とすればよく，英語との逐語対応なので楽チンです．さてこの文章の事実を Jimmy に伝えましょう．英語だと，They know you. とするでしょう．この you は目的格の代名詞であり，直接目的語（〜を）です．仏語でこの you に対応する 2 人称単数の目的格は te となりますが，Ils connessent te. とはならず，

They know **you**. = Ils **te** connaissent.

と語順が変化してしまいます.「彼ら・君を・知る」の語順ですから，むしろ日本語とおなじです．このような転移は，目的語が代名詞化されるときにだけ発生します．もうひとつ典型的な例は I love **you**. = Je **t**'aime. でしょう．t'aime は te aime の縮約形です．

前置詞をともなう間接目的語. つぎに，I talk to Robert. という文を考えましょう．ここでの talk はいわゆる自動詞ですが，to Robert という前置詞＋名詞の部分がまとまって事実上の間接目的語（〜に）になっています．これを仏語にすると

I talk **to Robert**. = Je parle **à Robert**.

となり，これまた逐語訳なので楽チンです．さてこの内容を Robert 本人に言う場合，英語だと Robert を単純に目的格の代名詞に変えて I talk to you. とするでしょう．しかし仏語では

I talk **to you**. = Je **te** parle.

となります．前置詞 à が消え，2 人称単数の目的格 te が to you の意味を持つのです．この te は間接目的語（〜に）ですから，Je t'aime で現れる直接目的語（〜を）の te とは別モノだといえます．実際，il/ils や elle/elles では目的格の代名詞に直接目的語用か間接目的語用の 2 通りが存在します．

仏語で目的格 me/you/him/her/.. に対応するものは，以下の通りです：

主格 :「直接」目的格 / 「間接」目的格
je : me / me
tu : te / te
il : **le / lui**
elle : **la / lui**
nous : nous / nous
vous : vous / vous
ils : **les / leur**
elles : **les / leur**

たとえば，

I know **him**. = Je **le** connais.
I know **her**. = Ju **la** connais.
You write **to him**. = Tu **lui** écris.
You write **to her**. = Tu **lui** écris.
They know **us**. = Ils **nous** connaissent.

[17] ネイティブも同様の理由で on を好んで用いるのだ，ということをどこかで読んだ（聞いた）気がします．もちろん会話では相手が nous を使うこともありえますし，所有格 notre/nos などは使う必要もありますから，nous のことを完全に忘れるわけにはいきません．

[18] costs = coûte < coûter（第 I 群），must = dois < devoir（不規則）．learn = apprendre（不規則）で，d'apprendre は de apprendre の縮約形．

[19] connaissent は connaître = know の 3 人称男性複数．

SVOO' 型の場合. たとえば I give this book to Jimmy/you. もしくは I give you this book. のように，直接目的語（〜を）と間接目的語（〜に）が両方登場する文の場合はどうでしょうか．たとえば，直接目的語 (this book) が代名詞化されていないときは

I give this book **to Jimmy**.
= Je donne ce livre **à Jimmy**.
I give **you** this book. = Je **te** donne ce livre.

とすれば OK です．つぎにこれを代名詞化してみましょう．英語だと，I give you it. という言い方はなんだか気持ち悪いので，ふつう I give it to you. として代名詞の連続は避ける傾向があります．

このあたりの感覚は仏語にも共通しているのか，直接目的語 (〜を) の部分が 1 人称・2 人称の場合 (me/te/nous/vous)，すなわち話者（ヒト）の場合は，

I introduce you to him. = Je te présente à lui.
He introduces us to you. = Il nous présente à vous.

のように，間接目的語（〜に）のほうに前置詞 à = to を使うなどして，代名詞の連続を避けることになっています．

ところが，直接目的語が 3 人称 le/la/les の場合（このときヒト・モノどちらの可能性もありえます），代名詞を並べることができます．上の I give you this book の場合に戻ると．

I give **it** to you. = Je te **le** donne

となります．ここで le は ce livre（男性名詞）を表す代名詞です．ふたつの代名詞はやはり主語と動詞の間に置かれるわけですが，これらの「正しい語順」は習慣的に決まっています．代名詞の組み合わせによっては

I give **it** to him/her. = Je **le** lui donne.

といった例もあります．[20]

前置詞用の目的格. 英語と仏語の前置詞は対応関係がとてもいいので，上の à lui = to him のような前置詞＋名詞は覚えやすく使いやすい表現です．英語では前置詞のあとに代名詞がくる場合，目的格をつかうのでした．仏語では上述の直接/間接目的語用の目的格とは別に，「強勢形」という別の目的格があって，これを前置詞と共に用います：

主格：目的格の強勢形
je : **moi**
tu : **toi**
il : **lui**
elle : **elle**
nous : **nous**
vous : **vous**
ils : **eux**
elles: **elles**

たとえば

for **me** = pour **moi**
for **you** = pour **vous** / pour **toi**
for **us** = pour **nous**
to **him** = à **lui**
with **her** = avec **elle**

強勢形は前置詞以外でもよく使われます．

代名詞 en と y. やや細かくなりますが，英語との違いという意味で代名詞 en と y について知っておく価値はあるでしょう.（実際に使いこなすかは，各人の習熟度次第だとおもいます.）

en はおもに直接目的語（〜を）に関係する代名詞です．たとえば

I know **that guy**. = Je connais **cet homme**.
⇒ I know **him**. = Je **le** connais.

のように，le/la/les を使った直接目的語の代名詞化は，基本的に that guy = cet homme, the book = le livre, もしくは固有名詞のように，会話の中で特定された名詞に限ります．それ以外，たとえば

I have **some French books.**
= J'ai **des livres français**.
He eats **carrots**. = Il monge **des carrottes**.
I drink **water**. = Je bois **de l'eux**（部分冠詞）.

のように，不特定なモノ・人が直接目的語となる場合それぞれ

J'ai **des livres français**.
⇒ J'**en** ai.[21]
Il monge **des carrottes**. ⇒ Il **en** monge.
Je bois **de l'eux**. ⇒ J'**en** bois.

のように，代名詞 en を使います．英語でも Do you have any French books? Yeah, I have some. のように，some が代名詞のように用いられることがありますが，この some に似た感じです．[22] en には他の用法もありますが，とりあえずこのぐらいにしておきましょう．

次に y ですが，これは間接目的語（〜に）と関係する代名詞です．たとえば

I talk **to that guy**. = Je parle **à cet homme**.
⇒ I talk **to him**. = Je **lui** parle.

[20] ネイティブは特定の状況で繰り返し使われる語順を習慣的に（大量に）身につけているだけであって,「文法」というルールをマスターしているわけではありません．したがってこのような語順は完全に習慣的なもので，何度も口に出して身につけるしかないと思われます．

[21] J'en は Je en の縮約形.

[22] en は次のように，数詞と共に用いることもできます：Do you have any children? Yes, I have two = Vous avez des enfant? Oui, J'en ai deux.

のように，lui/leur を使った間接目的語の代名詞化は，ヒトに限られています．モノの場合，たとえば

I go **to Paris.** = Je vais **à Paris**.
He thinks **about his future**.
= Il pense **à son avenir**.[23]

のように，à + モノが間接目的語となる場合それぞれ

Je vais **à Paris**. ⇒ J'**y** vais. [24]
Il pense **à son avenir**. ⇒ J'**y** pense.

のように代名詞 y をもちいます．上の Paris の文では，y が英語の I go there. の there に対応しています．y にも他の用法がありますが，このぐらいにしておきます．[25]

5 否定文

さて以上でほぼ，平叙文を述べるための骨格的な部分はカバーされました．つぎに否定文の作り方です．

否定文は，平叙文をベースに，ne と pas を挿入することで作られます．基本的には主語の直後に ne を，最初の動詞の直後に pas をおきます．[26]たとえば

I **do not** like vegetables.
= Je **n'**aime **pas** les légumes. [27]
He **doesn't** like you! = Il **ne** t'aime **pas**!
It is **not** my book. = Ce **n'**est **pas** mon livre. [28]
They are **not** your books.
= Ce **ne** sont **pas** tes livres.

会話では ne を省略して J'aime **pas** les légumes といった表現も OK のようです.

否定文における冠詞. 英語では I have **some** money. を否定文にすると I **don't** have **any** money. となるのでした．文法上 some （いくらか）は量の程度を表す形容詞ですが，これが否定文で any（ぜんぜん）に変化するのです．これに対応することが仏語でもおきます．

一般に，直接目的語（〜を）につく不定冠詞 un/une/des もしくは部分冠詞 du/de la/de l' はそれぞれ de（母音の前では d'）に変化します：

She has (**some**) French books.
= Elle a **des** livres français.（不定冠詞）
⇒ She **doesn't** have **any** French books.
= Elle **n'**a **pas de** livres français.

I drink (**some**) wine. = Je bois **du** vin.（部分冠詞）
⇒ I **don't** drink wine = Je **ne** bois **de** vin.
I have **some** money.
= J'ai **de l'**argent.（部分冠詞）
⇒ I **don't** have **any** money = Je **n'**ai **pas d'**argent.

一方，次のような場合は否定文になっても冠詞が変化しません：

It is sparkling wine.
= C'est **du** vin mousseux.（部分冠詞）
⇒ It is **not** sparkling wine.
= Ce **n'**est **pas du** vin mousseux.

たしかに，du vin mousseux はいわゆる SVC 構文における補語（属詞）であり，直接目的語ではありません．また，

J'aime **les** légumes.（定冠詞）
⇒ J **n'**aime **pas les** légumes.

のように，定冠詞は直接目的語でも変化しません.

とにかく，否定文で冠詞が de に変化するのは，英語でいえば some（いくらか）が any（ぜんぜん）に変化する場合に限るわけです.

6 疑問文

疑問文の作り方には 3 通りあり，それぞれよく使われます．Do you like vegetables? を仏語にしてみましょう：

- 一番簡単なのは，平叙文（もしくは否定文）の語尾を上げることです.

  Vous aimez les légumes? ↗

- 次に簡単ななのは，平叙文に Est-ce que (= Is it that) をつけることです.

  Est-ce que vous aimez les légumes? ↗

- 最後に，書き言葉や改まった会話で使われるのが動詞と主語を入れ替えるという方法です：

  Aimez-vous les légumes? ↗

  このばあい，動詞と主語はハイフンでつなぎます．また，代名詞や否定の ne..pas などがあるとどこに移動させるかという問題が生じて多少やっかいです.

さて会話では当然，疑問文に答える必要があるわけですが，英語の Yes, I do./ No, I don't. のような定型の受け答えはありません．普通に Yes/No = Oui/Non と答えるか，

Oui, je les aime. / Non, je ne les aime pas.

と答えることになります.

否定疑問文. たとえば否定文の語尾をあげて

[23] avenir = future（男性名詞）
[24] J'y は Je y の縮約形.
[25] en も y も使い分けは習慣的なものなので，やはり大量の例文に接することで慣れていくしかないとおもわれます.
[26] ne は主語を修飾し，pas は動詞を修飾していると考えればよいかもしれません.
[27] n'aime は ne aime の縮約形, aimer = like では,「なになに全般が好き」というのに定冠詞をつける.
[28] n'est は ne est の縮約形.

Don't you like vegetables?
= Vous n'aimez pas les légumes? ↗

とすれば否定疑問文となりますが，この場合受け答えは Yes/No それぞれ

Si, je les aime. / Non, je ne les aime pas.

となります．日本語の「はい/いいえ」の答え方と意味が異なるのは，英語と同様です．

以上で現在形の平叙文・否定文・疑問文はおおむねカバーできました．つぎに過去形・未来形を考えていきましょう．

7 過去形

会話文中で過去形を作るには，複合過去という時制を用います．形式的には英語の現在完了形（have+過去分詞）と同じで avoir+過去分詞（もしくはêtre+過去分詞）という形をしています．また，仏語の現在形が英語でいうところの現在進行形もかねるように，複合過去は英語でいうところの過去形と現在完了形の両方をかねる時制です．

過去分詞. 動詞の原形から過去分詞を作る一般的な方法はありませんが，第一群規則動詞の場合

arrive = **arriver** > arrivé
give = **donner** > donné
eat = **monger** > mongé

のように語尾の er をé に替えることで簡単に作ることができます．それ以外の場合はおおむね不規則で，

be = **être** > été
have = **avoir** > eu
go = **aller** > allé
choose = **choisir** > choisi
drink = **boire** > bu

などとなります．はやい話が，覚えるしかありません．

複合過去のつくりかた. 英語では，I **drank** wine. は主語を you/he/she/we/... などと変化させても，動詞の部分は変化しませんでした．仏語では主語にあわせて，次のように変化します：

J'**ai bu** du vine.
Tu **as bu** du vine.
Il/Elle **a bu** du vine.
Nous **avons bu** du vine.
Vous **avez bu** du vine.
Ils/Elles **ont bu** du vine.

すなわち,「avoir の現在形 + boire の過去分詞」という形です．同様に，

We **chose** this house.
= Nous **avons choisi** cette maison.
They **give** it to me. ⇒ They **gave** it to me.
= Ils me le **donnent**. ⇒ Ils me l'**ont donné**.

結局，avoir の活用と過去分詞を覚えれば過去形が作れるわけですから，負担の差は英語とあまりかわりません．

否定形は次のようになります：

We **didn't choose** this house.
= Nous **n'avons pas choisi** cette maison.
They **didn't give** it to me.
= Ils **ne** me l'**ont pas donné**.

êtreを用いる例外的な動詞. 例外的に以下の動詞ではêtre＋過去分詞で複合過去をつくります：

arrive = **arriver** > arrivé
come = **venir** > venu
depart = **partir** > parti
enter = **entrer** > entré
go = **aller** > allé
go out = **sortir** > sorti
go up/climb = **monter** > monté
go down/descend = **descendre** > descendu
go back = **entrer** > rentré
come back = **revenir** > revenu
remain = **rester** > resté
fall = **tomber** > tombé
bear = **naître** > né
die = **mourir** > mort

たとえば：

She arrived. / She has arrived.
= Elle **est arrivée**.

ひとつ注意すべき点は，過去分詞 arrivé は形容詞扱いとなり，女性用に e がついて arrivée と変化している，ということです．たとえば，They arrived. / They have arrived. という英語は，They に男性が含まれるか女性のみかに応じて

Ils **sont arrivés**. / Elles **sont arrivées**.

のように過去分詞が変化します．[29]この例では発音上の変化はありませんが，次の例ように変化する場合もあります：

He **died** in battle. = Il **est mort** à la guerre.
She **died** young. = Elle **est morte** jeune. [30]

8 未来形

英語には動詞の活用としての未来形はなく，助動詞 will を使ったり，be going to を使うのでした．仏語では動詞 aller を助動詞的に用いる「近接未来」と，動詞の活用のみによる「単純未来」があります．

[29]このような過去分詞の形容詞的扱いは,「avoir + 過去分詞」タイプの動詞でも起きる場合があります. (→受動態)
[30]mort（モーる）/ morte（モるトゥ）

近接未来. この方法はシンプルで,「aller の現在形＋ 動詞の原型」を用います．近い未来や，すでに結果がわかっている未来の出来事に使える便利な表現です．たとえば

She **will arrive** at ten.
= Elle **va arriver** à dix heurs.
She **won't arrive** at ten.
= Elle **ne va pas arriver** à dix heurs.

のようにします．この va は aller の 3 人称単数です．arriver は to 不定詞のようなものなので，主語によらず変化しません.

単純未来. 動詞の活用としての未来形は，現在形に比べると楽に覚えられます．think = panser のような第 I 群規則動詞の場合,

je pense**rai** （ジュ パンスれ)
tu pense**ras** （トュ パンスら）
il pense**ra** （イル パンスら）
nous pense**rons** （ヌ パンスろん）
vous pense**rez** （ヴ パンスれ）
ils pense**ront** （イル パンスろん）

となります．原型 penser（パンセ）に avoir の活用によく似た

je: -ai （エ）
tu: -as （ア）
il: -a （ア）
nous: -ons （オン）
vous: -ez （エ）
ils: -ont （オン）

をつけたとも考えられますが，不規則動詞の場合は上の太字のような活用語尾が共通して使われます．語幹は原型に近いものがほとんどで，比較的覚えやすいものばかりです．例外的に,

être > se- : je se**rai**
avoir > au- : j'au**rai**
aller > i- : j'i**rai**
faire > fe- ; je fe**rai**

のように特殊なものもあります：

I / He will be free tomorrow.
= Je se**rai** / Il sera libre demain.

9 その他の表現

形容詞（副詞）の比較級・最上級. 英語の more ＋形容詞＋ than および the most ＋形容詞に対応する方法で作ります．比較級は plus ＋形容詞＋ que で,

He is **taller than** you. = Il est **plus grand que** toi.

などとします．ただし，次の語は特殊な比較級を持ちます：

good = **bon** < meilleur
well = **bien** < mieux
much/many = **beaucoup** < plus
little/few = **peu** < moins

最上級は定冠詞＋ plus ＋形容詞でつくります：

Paris is **the biggest** city **in** France.
= Paris est **la plus grande** ville **de** France.

受動態. 英語の be ＋過去分詞と同様に，être ＋過去分詞を使います：

He **is infected** with flu.
= Il **est infecté** par la grippe.
They **were interested** in your CV.
= Ils **ont été intéressés** par votre CV.

過去分詞は主語に応じて形容詞的にあつかわれるため，形が変化します．また，男性用から女性用に変化する際に発音が変化する場合があります.

関係代名詞. 先行詞が人かモノかによらず，主語ならば qui, 目的語・補語ならば que を用います：

I know a guy **who** quit smoking.
= Je connais un homme **qui** a arêté de fumer.
That is the guy (**whom**) you like.
= C'est l'homme **que** tu aimes.
These are books **which** I bought at Paris.
= Ce sont les livres **que** j'ai acheté à Paris.

疑問詞. 英語と同様に，人かモノで疑問詞 qui と que(quoi) を使い分けます：

Who is singing? = **Qui** chante?
Who are you looking for? = **Qui** cherchez-vous?
With whom did he come? = **Avec-qui** est-il venu?
What happens? = **Qu'est-ce qui** se passe?
What is it? = **Qu'est-ce que** c'est?
What are you thinking about?
= **À-quoi** pensez-vous?

「いつ・どこ」でなどの疑問副詞の用法は英語とほとんど同じです：

When/Where/Why/How do you go?
= **Quand/Où/Pourquoi/Comment** vas-tu?
= **Quand/Où/Pourquoi/Comment** est-ce que tu vas?

疑問形容詞 which は quel(le) を用います：

Which book/**Which** beer do you like?
Quel livre/**Quelle** bière aimez-vous?

que(le) は次のような場合にも用いられます：

What is your nationality?
= **Quelle** est votre nationalité?

to 不定詞・動名詞に対応する表現. 英語の to 不定詞や動名詞に替わる表現をいくつか列挙しておきます：

I like **to swim**. = J'aime **nager**.
I started **reading** that book.
= J'ai commencé **à lire** ce livre.
I have nothing **to do**. = Je n'ai rien **à faire**.
I am happy **to see** you.
= Je suis heureux **de** vous **connaître**.

知覚・使役動詞. 知覚動詞・使役動詞に関わる表現を挙げておきます：

I **saw** Jimmy walking in the street.
= J'**ai vu** Jimmy marcher dans la rue.
She **felt** the earth trembling.
= Elle **a senti** la terre trembler.
He **makes** us wait.
= Il nous **fait** attendre.
I **let** my daughter leave.
= J'**ai laissé** ma fille partir.

仏語特有のもの：代名動詞. 仏語の動詞には再帰代名詞がセットになった代名動詞と呼ばれるものがあります．たとえば coucher という動詞は寝かせるという他動詞ですが，se coucher という「代名動詞」は se = oneself という代名詞がセットになっていて，自動詞的に

I **go to bed** at eleven.
= Je **me couche** á onze heures.

のように用います．活用は

je **me** couche
tu **te** couche**s**
il/elle **se** couche
nous **nous** couch**ons**
vous **vous** couch**ez**
ils/elles **se** couch**ent**

のように，se の部分も主語に合わせ変化させます．複合過去はつねにêtre を用いて

I **got to bed** early, but she **went to bed** at midnight.
= Je **me suis couché** tôt, mais elle **s'est couchés** à minuit.

のように，再帰代名詞をêtre の前に置きます．また，過去分詞は形容詞的に性・数に応じ変化させます．

仏語特有のもの：半過去形. 時間を明記せず，過去の状態・習慣・進行中の動作を表現する時制です．英語の過去（完了）進行形に近い時制だといえます．

When I was a kid, I couldn't swim.
= Quand j'**étais** petit, je ne **savais** pas nager.

étais と savais はそれぞれ être と savoir の半過去形です．

仏語特有のもの：接続法と条件法. 仏語の動詞は時制とは別に,「状況」に応じて特殊な活用をする場合があります.「接続法」や「条件法」とよばれるものがそれです．たとえば仏語の従属節（que + ⋯，英語でいう that 節にあたる）では接続法とよばれる特殊な活用がされることがあります：

I want him to **come** soon.
= Je veux qu'il **vienne** tôt. (< venir)
I hope (that) you'll **be** nice to me.
= Je souhaite que tu **sois** gentil avec moi. (< être)
It is possible that it **rains**.
= Il est possible qu'il **pleuve**. (< pleuvoir = rain)

太字は括弧内の動詞の「接続法現在」の活用です．ちなみに「接続法過去」は「avoir もしくはêtre の接続法現在＋過去分詞」で作られます．

また，英語の仮定法に対応して条件法とよばれる特殊な活用があります：

If I were rich, I **would be** more happy.
= Si j'etais riche, je **serais** plus heureux. (< être)

また，英語の would や could と同様に，婉曲表現にも用いられます．

I **would like to have** this wine.
= Je **voudrais** cet vine. (< vouloir = want)
Could you come by around noon?
= **Pourriez**-vous passer vers midi? (< pouloir = can)

仏語特有のもの：単純過去. 動詞には話し言葉としては使われない「書き言葉」の過去形「単純過去形」があります．文章では結構な頻度（3 人称が多い）で登場するので，ポイントだけ抑えておきましょう．

avoir > il e**ut** / ils e**urent**
être > il f**ut** / ils f**urent**
penser > il pens**a** / ils pens**èrent**
finir > il fin**it** / ils fin**irent**
venir > il v**int** / ils v**inrent**

太字は他の動詞でも用いられる単純過去の典型的な語尾です．